

豊川市障害者福祉計画等
障害関係団体
【ヒアリング結果報告書】
※当事者団体編

目次

1 調査の概要.....	1
(1)調査目的	1
(2)調査期間	1
(3)調査対象者と調査方法.....	1
(4)調査対象者の概要	1
2 調査結果.....	2
(1)団体が活動するにあたっての課題や問題点	2
(2)今後の団体の方向性等(力を入れて取り組んでいきたいこと等)	3
(3)分野ごとの課題と必要なサービスなど	4

豊 川 市

1 調査の概要

(1) 調査目的

障害のある人を取り巻く現状や課題、今後の方向性などに関する意向などについて、団体等からの率直な意見を把握することで、「第4次豊川市障害者福祉計画・第6期豊川市障害者福祉計画・第2期豊川市障害児福祉計画」の基礎資料とするためにヒアリング調査を実施しました。

(2) 調査期間

令和2年7月15日～8月14日

(3) 調査対象者と調査方法

豊川市で活動する障害関係団体等を対象に調査シートを配布し、回収しました。

(4) 調査対象者の概要

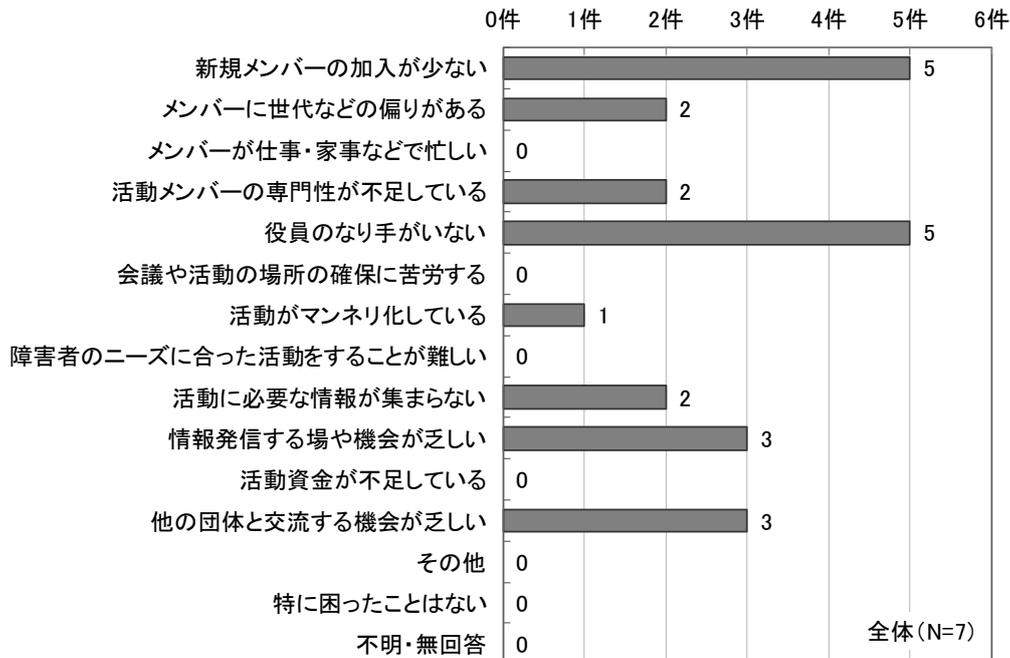
団体名	メンバー構成等
豊川市身体障害者福祉協会	○最年少は60代、最年長は90代。
豊川市身体障害者福祉協会 視覚障害者福祉部会	○最年少は35歳、最年長は85歳。 ○構成員のうち18名が全盲。中途失明者がほとんど。 ○盲導犬ユーザーは、市内3名中2名が会員。
豊川市ろうあ者福祉協会	-
豊川市知的障害者育成会	○最年少は30代、最年長は80代。
豊川市肢体不自由児（者）父母の会	○最年少は30代、最年長は70代。
豊川呼吸器友の会	-
豊川精神障がい者家族会むつみ会	○最年少は40代前半、最年長は80代後半。

2 調査結果

(1) 団体が活動するにあたっての課題や問題点

団体が活動するにあたっての課題や問題点は、「新規メンバーの加入が少ない」「役員のなり手がいない」がそれぞれ最も多くなっています。

なお、課題や問題点の具体的な内容としては、役員の担い手不足、勧誘などのしづらさ、世代間の団体活動への考えの違いなどがあげられています。



■課題や問題点の具体的な内容

具体的内容
◆役員就任について
○役員をやるなら会を辞めると言われる。(3件)
○高齢化により、受け手がいない。
○医療的ケア児など重度のお子さんのいる会員が増え、会の活動への参加が難しく、役員を頼める状況にない。
◆勧誘方法について
○個人情報への壁があり、情報が得られない。(2件)
○学校にチラシを配れなくなった。
○市の方で、会員募集のチラシを渡す機会を増やしてもらえるとありがたい。
○学校に依頼し、PTAに団体の活動を説明しても反応が薄い。
○民生委員に紹介を依頼したこともあるが、民生委員も情報を持っていないようだった。
○会報以外の手段がない。行政の協力がほしい。
◆世代間について
○サービス事業所のサポートが充実し、若い親の困り事が少ない。
○若い世代は忙しく、団体活動そのものに興味がない。
○勤務している人が加入しづらい。
◆障害等の理解や交流について
○会員の病識が不足している。
○同じ症状の人に会う機会がない。

具体的内容
○以前は市民病院の医師が勉強会を開催してくれていたが、かかりつけ医が基本となり、患者の交流が減った。
◆その他
○高齢化が進んでいる。
○育成会そのものを知らない。
○上部団体もなく、他市の団体も交流なし。
○情報誌は発行していない。
○体育指導、女性部などが無い。
○事業所のネットワーク（繋がり）で情報を得ている。

(2) 今後の団体の方向性等(力を入れて取り組んでいきたいこと等)

今後の団体の方向性については、「新規メンバーの加入促進」「会員の状況の把握」などがみられます。

団体名	活動内容
豊川市身体障害者福祉協会	○会員の孤独感の解消など、地道な活動の継続。 ○新規会員の加入促進。基本的に申し込みを待つだけであり、本人が良くても家族が断るケースもある。
豊川市障害者福祉協会 視覚障害者福祉部会	○現状維持。新たな活動を行う余裕がない。
豊川市ろうあ者福祉協会	○手話言語条例策定委員会の設置のために現在準備中。 ○来年頃を目途に、団体名を「ろうあ者協会」とし、目的の変更を検討している。 ○創立70周年記念大会を来年秋頃に開催予定。
豊川市知的障害者育成会	○親亡き後も安心して暮らし続けられる環境の確保のための活動。地域と交流し、地域で知ってもらえると生活しやすくなる。
豊川市肢体不自由児(者)父母の会	○コロナウィルスの流行や災害時に、会員すべてに必要な支援が届くよう実態を把握していく。会員のそれぞれの状況は役員でも承知していない。今年10月頃に結果報告できるよう、アンケートを実施予定。
豊川呼吸器友の会	○メンバーの加入に力を入れようか検討しているが、現状やる術がない。
豊川精神障がい者家族会むつみ会	○役員交代等により、現会員(当事者)の状況を把握しかねている。そのため、交流を深める行事を企画したりする中で解決していきたい。以前は役員が会員宅を訪問していたが、今はできておらず、行楽などの行事により交流を図りたい。

(3) 分野ごとの課題と必要なサービスなど

内容
①保健・医療について
○近年は、ガンになる人が増えている。もっと健診に力を入れた方が良い。行きやすい所で勉強会があると良い。広報誌等で勉強会を広報してくれると良いのでは？
○区分認定など医師の診断書が必要な時に委託、医師の派遣。児童精神科医が市内及び近隣で不足している。
○行動障害のある方の受診時にヘルパーの同行。
○健診を行っている事業所が少ない、機会をつくってもらいたい。
○感染症で隔離が必要となった場合、本人一人では治療は困難。また、家族が感染した時の通所などができるか不安。
○障害の特性から一律に…ということはかなり難しいので、担当医と相談ということになるのでは。
○医療に結び付いていない人や通院を途中で拒否してしまう人に対して、訪問診療の体制を整えてほしい。精神障害に対する訪問診療が確立されていない。
○受診させたくても、当事者が拒絶する場合の医療機関の支援がほしい。病識のない当事者へのアプローチに医師の支援が必要。
○診察と会計は呼ぶ時、番号掲示板を配置されたい。医療機関の各窓口に番号掲示板を付けてほしい。
○胃部X線撮影を検査する時、モニター2台（2画面）を付けたい。体位変換の指示を技師がつど伝えに来る。モニターを2方向に設置して、指示を出してもらえるようにしてほしい。
○定期的な訪問指導（不安感の解消）の充実。
○病院によって物品の支給状況が違う。呼吸器の加湿器の水がもらえない。飲み薬の処方量が異なる。
○肢体不自由児者のリハビリ施設が足りない。市内で補えず、近隣市を利用せざるを得ない。
②生活環境の整備について
○ドラゴン4は豊川市役所とウィズ豊川に配置されたい。以前から要望しているアイドラゴン4を、災害時の情報保障等のため設置してほしい。
○バスでの移動で、乗り継ぎ時間などの充実がなく不便。コミュニティバスの本数が少ない。
○エレベーターの設置。公共施設、民間施設（2階建てでもほしい）。
○介助の依頼には事前の手配が必要、すぐに対応できる体制があれば良い。家族がいない人は困ることが多い。依頼してもこちらの調整に時間がかかる。
○障害者の高齢化、高齢者の身体機能の衰えによる障害化。
○災害時の心細さ、買い物難民、通院手段。免許返納するとどこへも行けない。タクシー券も限りがある。コミュニティバスが使いにくい。
○歩道の整備（道路がガタガタ、車いすでの移動が不安）。自宅周辺（住宅地）を特に整備してほしい。児が1人で散歩したくても車いすで移動し辛く、諦めている。歩道の法面の勾配を緩やかにしてほしい。
○多目的トイレ（車いすでの利用し辛い、時間がかかる、数を増やしてほしい）。多目的トイレに変わり、様々な人が利用できるようになったため、使いたい時に使えない場面が多くなった。車いす専用トイレを別に増やしてもらいたい。
③相談・情報提供について
○個人情報絡みで会員の掘り起こしは不可能（手を差し出せない）。
○民生委員さんでもなかなか踏み込めない状況では？（相談されても困るケースも）。民生委員もあまり情報をもっていない。
○広報とよかわなどで、「家族会」の存在などを知らせてもらえたらと思う。
○障害者総合支援法、障害福祉サービス自体、知らない家族がほとんどである。制度の周知を望む。
○在宅の人の支援、社協のCSWを知ってもらい、相談できると良い。
○民生委員とのコミュニケーションがとれていない。
○民生委員には地域内の障害者児を知っていてほしい。

内容
<p>○子どもや医療的ケアに詳しい相談員を増やしてほしい。そもそも障害福祉に関する人材が不足しているが、相談支援専門員が足りない。</p>
<p>④住まい・住宅の確保について</p>
<p>○グループホームの補助金は続けてもらいたい。家賃補助の制度を継続してほしい。 ○世話人不足の解消、特性を理解してケアしてくれる方の育成。（支援者の）待遇を良くして、丁寧に従事してもらえるようにしてほしい。 ○グループホームの施設条件が厳しい。障害特性によっては断られる。 ○持ち家、または賃貸住宅を利用して24時間支援（地域共生）。 ○グループホームが生活介護事業を併設の場合、囲い込みが行われているような気がする。グループホーム利用のために、生活介護事業所の変更を求められる事業所がある。 ○高齢化問題。親と子が近くで暮らせる施設がほしい。</p>
<p>○可能な限り、自宅で過ごせるようバリアフリー化。バリアフリーの助成制度が使いづらい（住宅改修の上限額が福祉と介護で異なる、一度利用すると2回目は使えない）。 ○災害対応など一層の助成。</p>
<p>○市内にあるグループホームなど、施設内容・設備も含め、広報で知らせれば、市民の中に浸透すると思う。 ○グループホーム、短期入所をもっとつくってほしい。 ○親亡き後の問題が深刻。精神障害に対する理解、病識のあるグループホームが増えてほしい。親亡き後に近所とトラブルとならないようにしたい。</p>
<p>○身体障害者のグループホームを豊川でつくってほしい。親が世話をできなくなった時に、24時間介護のあるグループホームがあると良い。高齢者の緊急通報システムを障害者も使えるようにしてほしい。 ○自宅のバリアフリー化（補助金を増やしてほしい）。住宅改修の上限額が介護より少ない。一度利用すると2回目は使えない。</p>
<p>⑤雇用・就労について</p>
<p>○一般企業の障害者雇用に余裕がない。今はコロナウィルスが大きく影響。 ○福祉就労後のフォロー体制の強化。</p>
<p>○就労のためのヘルパー利用。場面に応じ、ヘルパーを使えるようにしてほしい。</p>
<p>○障害者の雇用率の遵守をお願いしたい。行政も民間も雇用率を守れていない。 ○障害者の多様な働き方で就労の促進を（働くことの意義を）。</p>
<p>○精神障害者を対象とした、就労移行支援事業を整備してもらいたい。市内にA型事業所が少ない。 ○離職率の高い精神障害者が、継続して働き続けるためのサポート体制もつくってもらいたい。企業には営利目的ではなく、社会福祉の観点から障害者雇用を進めてほしい。</p>
<p>⑥災害時の支援について</p>
<p>○コロナと避難は難しいと思う。避難所への移動がそもそも困難。避難所での生活も感染症が怖い。ペットも不安。電源、酸素ボンベの確保。</p>
<p>○災害時、避難所で聴覚障害者に対する配慮をしてほしい。手話通訳やメッセージボード等の配慮をしてほしい。また、ろう者も支援者も災害用バンダナを付けるようにしてほしい。</p>
<p>○災害時の電源確保。 ○発電機、蓄電池、ポータブル電源などの補助。自宅で備蓄していても土砂で家ごと流されることもあり得る。災害によっては数日間支援が受けられない可能性もある。 ○電源を必要としない医療機器の配布。 ○はっきりとした福祉避難所等の案内。流れがわかりにくい。避難所で受け入れを断られるのが怖い。</p>
<p>○入所施設が被災した場合に、一時的に受け入れてくれる施設との提携。 ○行政、団体など協力して避難所の疑似体験。福祉避難所での訓練への参加も。 ○薬の確保ができるか不安。すべての持病のある人の課題。</p>
<p>○避難所へは行かず、災害時に自宅での支援を受けることを望む人が多い。自宅であれば、どこに何があるかわかる。避難所に行かざるを得ないのであれば、近くにボランティアや介助者が常についてほしい。</p>

内容
<ul style="list-style-type: none"> ○本当に機能するのか？（災害者応援体制）。ストマの人にとって避難所のトイレが対応しているか不安（分からないので避難を控えてしまう）。 ○定期的な訓練を。本当に発災したら避難できるのか（訓練もしてない）。 ○地域とのつながり（行政の情報提供はできないか？）。 ○多様な災害の中、支援の仕方を普及、周知することが重要。障害者が避難することで、他の避難者に迷惑をかけるのではと心配。
<ul style="list-style-type: none"> ○菓の確保をどうするか。いつ地震が起きてもおかしくない状況であり、精神障害に係る菓の確保策を考えてもらいたい。 ○避難所で過ごすことができない当事者はどうしたら良いか。避難所でのサポート体制を考えてもらいたい。
⑦障害への理解と交流について
<ul style="list-style-type: none"> ○イベントを設けてあらゆる聴覚障害者、市民への交流を深めたい。ふれあいフェスティバル以外にも交流イベントを企画、実施してほしい。 ○すべてのイベントなどに、障害者であっても最初から参加できるものだという考えで計画してほしい。成人式など、安心して参加できるように工夫してほしい（参加時のヘルパーの手配）。 ○介助するボランティアも高齢化が進み、若い人が入ってこない。支援者が高齢化することで手配が難しくなり、外出の機会が少なくなる。ふれあいフェスティバルでも点訳コーナーの担当や盲導犬ユーザー等は参加するが、一般の会員はあまり参加しない。 ○障害者との交流とか理解促進の事業でなく、通常事業で障害者への配慮といった形でそれを常態化していくべきか。特別なことをするのではなく、日常生活の中で配慮がしてもらえなくては意味がない。 ○障害者にやさしいまちづくり。 ○物理的なバリアフリーと心のバリアフリーが必要。 ○ボランティアも若い世代が増えてほしい。 ○生涯学習のカリキュラム。障害者理解をテーマとした講座の開設。 ○小中学生の交流体験。小さい頃に知ってもらえる機会づくり。 ○気軽に相談できる、ボランティア活動されている方とも交流できるカフェがあると良い。認知症カフェのようなイメージ。 ○前に比べればよりバリアフリー等進んでいると思うが、まだ今一步。多目的トイレが増えた。健常者の視線が気になる（状況を見て声を掛けるのか否か）。
⑧教育・保育について
<ul style="list-style-type: none"> ○患者本人が学校に行きたいのであれば、その気持ちを大事にしてあげたい。サポートできる体制がほしい。健常児と同じ学校生活が送れると良い。 ○子どもの頃から障害者に偏見を持たない教育を実施してもらいたい。 ○身体障害児専用の放課後デイがあると安心。身体障害者（成人）についても利用できる放課後デイもほしい。 ○放課後等デイサービスが急増したことによる内容（質）の見直し。
⑨生涯学習活動について
<ul style="list-style-type: none"> ○気軽に余暇活動できる環境づくり（さくらピアのような施設）。障害児者専用のフリースペース（市内にない）。 ○支援してくれる方の育成。障害児者に理解、知識のある人が増えてほしい。障害児が学校卒業後に学べる機会が少ない。 ○手話レベルアップ講座を開催したい。手話奉仕員養成講座修了者に、スキルアップ講座を開催してほしい。 ○市職員がろうあ者の理解と手話を学んでもらいたい。全職員が手話を学ぶ、触れる機会を設けてほしい。 ○障害があっても、スポーツ・余暇活動を楽しめるように支援してほしい。主催者側の理解が必要。安心して参加できるように支援してほしい。 ○障害者を対象としたスポーツ、レクリエーション、文化活動については団体として実施しているが、障害理解の観点から事業展開が望まれる。グランドゴルフやパターゴルフなら参加できる。